



「行こうよ!東北」商品企画コンテスト 会長賞に岩手県「ソウルフード&B級グルメ満喫」の旅 6県対象のツアー各2コース、計12作品を優秀賞に選ぶ

日本旅行業協会（JATA）国内旅行推進委員会は1月24日に開催した会議で、JATA東北復興支援プロジェクト「行こうよ!東北」商品企画コンテストで応募のあった作品の中から、(株)エヌ

秋田・岩手・宮城・山形・福島の6県を対象とするツアーのうち、各県2コースずつ合計12の優秀賞を選定していました。

「山寺」を専門家と巡る旅」は、50年に一度という山寺立石寺の御開帳見学を最大の訴求ポイントとするもので、専門家による解説と案内で通常のツアーよりも時間をたっぷり取る工夫を凝らしています。縁結びの「若松寺」では開運を授ける和尚との握手会を予定したり、風情ある宿場町・檜下宿を味のあるおじいちゃんガイドの同行で散策したりするなど、地元の人々との濃い交流を楽しめます。企画担当者は、「収穫量No.1のこんにゃくを活かしたヘルシーなこんにゃく懷石の昼食や山形牛、いも煮、おそば、美味しいお米『はえぬき』など山形の美味を堪能できるほか、2泊目は300年を超える古民家宿に宿泊し、希望者は農業体験も可能」とツアーの魅力を紹介しています。

商品企画コンテストでは、JATAが昨年12月に実施した同プロジェクトに参加した会員各社から商品企画案を募集。応募があった作品の中から商品企画コンテスト選考委員会が、青森・

会長賞に輝いた「いわて・みやこソウルフード&B級グルメ満喫!コンパクトでも内容ギッシリ1泊2日」は、誰もが「こんなところに行きたかった」と感じられるお店ばかりをチョイスし、魚市場や魚菜市場見学、遊覧船など宮古沿岸の見どころをコンパクトに集約。岩手県ならではの素朴な写真ポイントも押さえると同時に、JR山田線や三陸鉄道の乗車なども組み込んでいます。企画担当者は、「被災地の見学も織り込み、地域の現状を垣間見ることができると、お土産もリーズナブルに購入できる市場系をチョイス。食事は現地払いにして販売価格を下げることで、より近い東北を訴求した」と説明しています。

「山寺を専門家と巡る旅」に国内旅行推進委員長賞



宮古市の「魚菜市場」

また、国内旅行推進委員長賞が贈られる「高島・檜下宿と50年に1度の御開帳

す。



縁結びの寺として知られる「若松寺」

JATA東北復興支援プロジェクト「行こうよ!東北」商品企画コンテスト表彰コース

優 秀 賞				
	会 社	商品名	会 社	商品名
青森県	(株)ユーラシア旅行社	充実の白神山地ハイキングと日本海望む絶景列車「リゾートしらかみ」	(株)びゅうトラベルサービス	青森～函館の縄文文化遺跡群をたっぷりじっくりめぐる3日間
秋田県	近畿日本ツーリスト(株)	日本一の祭りばやし「花輪ばやし」と日本最古の木造芝居小屋「康楽館」の観劇	(株)イーホリデー	秋田2大有名温泉と観光地を巡る「満喫」の3日間
岩手県	(株)エヌオーイー	いわて・みやこソウルフード&B級グルメ満喫!コンパクトでも内容ギッシリ1泊2日	(株)毎日企画サービス	東北海岸トレイル(北山崎遊歩道)と陸中海岸「青の洞窟」探検
宮城県	京王観光(株)	「ローカル線でめぐる三陸復興応援ツアー」	(株)ユーラシア旅行社	地元語り部に聞く南三陸・気仙沼の今と、変わらぬ美景・松島の旅
山形県	(株)ジャルパック	高島・檜下宿と50年に1度の御開帳「山寺」を専門家と巡る旅	(株)風の旅行社	出羽庄内・月山山麓で作るmyとかんじき
福島県	クラブツーリズム(株)	がんばろう東北 旅で笑顔を咲かせよう 語り部ガイドと元気に巡る～福島復興応援ツアー～	(株)日本旅行	松川川震災語り部と新島八重の足跡を訪ねて

◆JATA 会長賞: (株)エヌオーイー
◆国内旅行推進委員長賞: (株)ジャルパック

◆青森県賞: (株)ユーラシア旅行社、(株)びゅうトラベルサービス
◆秋田県賞: 近畿日本ツーリスト(株)、(株)イーホリデー
◆岩手県賞: (株)エヌオーイー、(株)毎日企画サービス

◆宮城県賞: 京王観光(株)、(株)ユーラシア旅行社
◆山形県賞: (株)ジャルパック、(株)風の旅行社
◆福島県賞: クラブツーリズム(株)、(株)日本旅行

平成24年 出国日本人数推計値

2012 Japanese Overseas Travelers

出国日本人数 Japanese Overseas Travelers					
平成25年1月25日 (単位:人 / Unit: Persons)					
月 Month	平成22年 2010	平成23年 2011	平成24年 2012	伸率(対23年) Change %	伸率(対22年) Change %
1 Jan.	1,264,299	1,282,348	1,331,144	3.8	5.3
2 Feb.	1,289,825	1,391,193	1,572,587	13.0	21.9
3 Mar.	1,563,113	1,420,584	1,737,033	22.3	11.1
4 Apr.	1,212,959	1,114,906	1,410,963	26.6	16.3
5 May	1,262,453	1,152,339	1,431,204	24.2	13.4
6 Jun.	1,312,608	1,267,227	1,481,674	16.9	12.9
1~6 Jan.-Jun.	7,905,257	7,628,597	8,964,605	17.5	13.4
7 Jul.	1,405,335	1,465,379	1,598,016	9.1	13.7
8 Aug.	1,642,240	1,786,412	1,964,041	9.9	19.6
9 Sep.	1,541,041	1,637,158	1,622,996	-0.9	5.3
10 Oct.	1,437,105	1,517,525	1,470,289	-3.1	2.3
11 Nov.	1,397,424	1,497,704	*1,440,000	*-3.9	*3.0
12 Dec.	1,308,822	1,461,425	*1,430,000	*-2.2	*9.3
7~12 Jul.-Dec.	8,731,967	9,365,603	*9,525,000	*1.7	*9.1
1~12 Jan.-Dec.	16,637,224	16,994,200	*18,490,000	*8.8	*11.1

出典は「日本政府観光局(JNTO)」

注1: 出国日本人数の平成22年および平成23年は確定値、平成24年は暫定値、*部分はJNTOが独自に算出した推計値である。

注2: 出国日本人数(確定値・暫定値)は法務省資料を転記した数値である。

2012年の年間出国者数は1849万人 2000年以来12年ぶりに過去最高を更新

日本政府観光局(JNTO)が1月25日に発表した出国日本人数推計値によると、昨年12月は前年同月比2・2%減の143万人にとどまり、前年同月比ベースでは昨年9月から4カ月連続でマイナスを記録する形となりました。

しかし、昨年1月から12月までの累計では、前年比8・8%増の1849万人に達して、出国日本人の年間総数としては初めて1800万人

の万台を突破。2000年に記録した1781万8000人を上回り、過去最高を更新しています。

昨年は、1月から6月までの上半期の出国者数が前年同期比17・5%増の896万4605人を記録し、東日本大震災の影響で海外旅行需要が一時的に低迷した一昨年上半年期の反動もあって、2桁台後半の高い伸び率を示していました。7月から12月までの下半期は、実数

平成24年 訪日外客数推計値

2012 Visitor Arrivals

訪日外客数 Visitor Arrivals					
平成25年1月25日 (単位:人 / Unit: Persons)					
月 Month	平成22年 2010	平成23年 2011	平成24年 2012	伸率(対23年) Change %	伸率(対22年) Change %
1 Jan.	640,346 (437,752)	714,099 (505,543)	684,819 (485,860)	-4.1 (-3.9)	6.9 (11.0)
2 Feb.	664,982 (514,106)	679,393 (506,441)	547,948 (364,537)	-19.3 (-28.0)	-17.6 (-29.1)
3 Mar.	709,684 (484,298)	352,676 (190,730)	678,748 (452,568)	92.5 (137.3)	-4.4 (-6.6)
4 Apr.	788,212 (601,872)	295,826 (108,820)	781,501 (582,511)	164.2 (435.3)	-0.9 (-3.2)
5 May	721,348 (536,880)	357,783 (183,799)	669,061 (473,662)	87.0 (157.7)	-7.2 (-11.8)
6 Jun.	677,064 (511,123)	432,883 (282,118)	683,096 (511,483)	57.8 (81.3)	0.9 (0.1)
1~6 Jan.-Jun.	4,201,636 (3,086,031)	2,832,660 (1,777,451)	4,045,173 (2,870,621)	42.8 (61.5)	-3.7 (-7.0)
7 Jul.	878,582 (714,623)	561,489 (396,559)	846,967 (666,623)	50.8 (68.1)	-3.6 (-6.7)
8 Aug.	802,725 (613,413)	546,503 (373,195)	774,014 (592,810)	41.6 (58.8)	-3.6 (-3.4)
9 Sep.	717,756 (498,421)	538,727 (323,947)	658,011 (430,025)	22.1 (32.7)	-8.3 (-13.7)
10 Oct.	727,278 (507,872)	615,701 (404,377)	705,641 (480,254)	14.6 (18.8)	-3.0 (-5.4)
11 Nov.	634,818 (435,315)	551,571 (358,056)	*648,600	*17.6	*2.2
12 Dec.	648,380 (506,299)	572,101 (423,650)	*689,700	*20.6	*6.4
7~12 Jul.-Dec.	4,409,539 (3,275,943)	3,386,092 (2,279,784)	*4,322,900	*27.7	*-2.0
1~12 Jan.-Dec.	8,611,175 (6,361,974)	6,218,752 (4,057,235)	*8,368,100	*34.6	*-2.8

出典は「日本政府観光局(JNTO)」

注1: 訪日外客数の平成22年、23年は確定値、平成24年は暫定値、*部分はJNTOが独自に算出した推計値である。

注2: 訪日外客数(確定値・暫定値)は法務省資料を基にJNTOが算出した数値である。

注3: 訪日外客数(確定値・暫定値)とは、国籍に基づく法務省集計による外国人正規入国者から、日本を主たる居住国とする永住者等の外国人を除き、これに外国人一時上陸客等を加えた入国外国人旅行者のことであり、駐在員やその家族、留学生等の入国者、再入国者は訪日外客に含まれる。

注4: ()内は、総数のうちの観光客数である。

訪日外客は一昨年に近づく 836万人に

一方、JNTOによると、昨年12月の訪日外国人旅行者数は、前年同月比20・6%増の68万9700人を記録し、昨年

こそ952万5000人に達して上半期の実績を上回ったものの、前年同期比では1・7%増と1桁台前半の低い伸びにとどまりました。

1年間では前年比34・6%増の836万8100人となりました。

しかし、東日本大震災と東京電力の福島第一原子力発電所事故の影響で訪日外国人旅行者数が大幅に減少する前の2010年と比較すると、急回復は示したものの、2012年の年間数値は2・8%減で依然としてマイナスにとどまっています。

JNTOでは、中国市場の早期回復や東南アジア市場のさらなる拡大など、訪日外国人旅行の量的および質的な向上を図るため、「2013年も引き続きオーラルジャパンでの訪日旅行誘致施策に取り組んでいく」と説明しています。

社会貢献委員会

ユニバーサルツーリズム実践セミナー

羽田空港で座学に加え高齢者疑似体験も

日本旅行業協会（JATA）社会貢献委員会・バリアフリー旅行部会は1月23日、全日本空輸（ANA）、東京国際空港ターミナル（TIAAT）の協力により「ユニバーサルツーリズム実践セミナー」を開催しました。

同セミナーには会員会社の17人が参加し、旅行会社がバリアフリーツアーを企画・催行する際に必要な情報・留意点について関係者から説明を受けた後、実際に参加者にも高齢者疑似体験をしていただきました。

JATAバリアフリー旅行部会の田中部会長はセミナーの冒頭で、「急速に進

チャンスととらえ、取り組むことが重要だ」と語りました。

む超高齢社会の中で、社会的インフラの整備、医療機器の発達により、高齢者や障がいのある方の外出や旅行への参加の機会も増えている」と指摘。「バリアフリー法など社会インフラの整備が進み、受入施設側の意識も高まっており、旅行会社しかできないCSR活動、ビジネス

田中部会長が実際の業務で発生した事例などを紹介した後、ANA「おからの不自由な方の相談デスク」の西村一美主席部員から、同社の取り組みとともに、搭乗にお手伝いが必要なお客様に対して旅行会社が留意する点・お客様に確認すべき点についての説明がありました

した。航空機内という制限された空間で、車いすやストレッチャー（簡易ベッド）、座位保持のためのサポートベルトの他、お客様が日常使っている補助具などを実際に確認のうえ、使用することなど、西村主席部員による既存の設備・用具にとどまらない対応が取られていることへの説明を通じ、参加者からは「さまざまなサービスがあることが分かり、お客様へのご案内の幅も広がった」などの感想が聞かれました。

お客様のスタンスや視点で検証

TIAATの原直子マネジャーからは、計38回にわたるユニバーサルデザインワークショップを通して検証を行い、でき上ったエレベーターや多機能トイレなどの施設について説明がありました。特に、トイレの前の触知案内図の利用が少ない現状などを踏まえ、お客様のスタンスや視点で従来の方法を検証し、既成概念に

とらわれずに、シンプルかつ実用性を重視することの大切さなどが強調されました。現場での細かな点に配慮した整備が行われており、お客様への対応が常に進化していることもうかがわれました。プログラムの最後では、参加者は合計8キロにもなるおもりを足や腕に付けたら、胸のポケットに入れるなどして、杖をつきながら空港内を実際に歩いてみました。

ゴーグルを装着し、白内障を実感してもらった体験では、普通の文字サイズの書面も非常に読みづらいことも分かり、参加者からは「お渡しする書類などへの配慮が必要」「お客様と相対する旅行会社としても大変に参考になった」などの感想が聞かれました。

《今後の予定》

今年度のユニバーサルツーリズムセミナー大阪・3月6日（水）

※来年度から全国に広げ開催予定です。

「高速ツアーバス」の定義に関するQ&Aについて

平成25年1月7日
（一社）日本旅行業協会

○全体的に

Q1. 旅行者の依頼により旅行会社が手配する、「手配旅行」や「受注型企画旅行」の扱いはどうなりますか。

A1. 「高速ツアーバス」は、旅行会社が募集型企画旅行として実施するものが対象であり、「手配旅行」、「受注型企画旅行」は「高速ツアーバス」には該当しません。

Q2. バスを利用した募集型企画旅行で宿泊サービスを付加した場合、「高速ツアーバス」に該当しますか。

A2. 「宿泊サービス」が提供されていれば、「高速ツアーバス」には該当しません。（バス車中泊は宿泊サービスではありません）

○TDR、USJ等参加の場合

Q3. 募集型企画旅行としてバス（片道のみ）と付随サービス（入場券）を提供します。その場合は「高速ツアーバス」に該当しますか。

A3. 「付随サービス」が提供されており、その日程が旅程管理及び特別補償の対象となっている場合は、「高速ツアーバス」に該当しません。

Q4. バスの片道、往復の利用を問わず、募集型企画旅行として、付随サービス（入場券：年間パスポート等を除く）を併せて提供しますが、行程の途中に宿泊するため途中下車（乗車も含む）する場合、「高速ツアーバス」として扱われますか。

A4. 「付随サービス」が提供されており、その日程が旅程管理及び特別補償の対象となっている場合は、高速ツアーバスではありません。ただし、片道、往復を問わずバスをみの利用の場合は、「高速ツアーバス」に該当します。

○付随サービスの提供関連

Q5. 募集型企画旅行でアウトレットでの買物を目的としたバスツアーを販売します。その場合、「高速ツアーバス」に該当しますか。

A5. アウトレットモールにおける活動が旅行の日程として募集広告、契約書面に明記され、その日程が旅程管理及び特別補償の対象となっている場合は「高速ツアーバス」に該当しません。

○スキー、登山の場合

Q6. 募集型企画旅行でスキーや登山バスを販売しますが、「高速ツアーバス」に該当しない要件を教えてください。

A6. ①バスの乗降場所がスキー場や登山口以外に設定されていないこと、②スキー、登山を目的としたお客様と、それ以外を目的とする旅行者が混乗しないこと、③スキー、登山の活動が旅行の日程として募集広告、契約書面に明記され、その日程が旅程管理及び特別補償の対象となっていること、以上の3点が主な要件です。

Q7. Q6の回答において、③は具体的にどのような内容を指すのですか。

A7. 往復の場合は往路のバス降車後から復路のバス乗車前まで、片道の場合はバス降車後に実施されるスキーや登山が募集広告、契約書面に明記され、スキーや登山を含めた旅行の日程が旅程管理及び特別補償の対象となっていることです。

○その他

Q8. 高校野球の応援で甲子園球場往復のバスを募集型企画旅行で実施します。これは高速ツアーバスに該当しますか。

A8. 観戦が募集広告、契約書面に明記され、その日程が旅程管理及び特別補償の対象となっている場合は、「高速ツアーバス」に該当しません。